

【転居された方は事務局(svcf-admin@svcf.jp)まで転居先をお知らせください】

福島原発事故被災者支援活動報告

小さなことから、大きな事まで身体を動かして支援します 今回は、石拾い、草刈、葡萄樹の剪定、モニタリング

「福島復興支援事業」最初の取り組みが8月26日から31日に掛けて行われました。26日から29日まで「かわうちワイン」(株)葡萄園の整備支援。30日は帰宅困難区域の富岡町のKさん宅の草刈。31日も同様に大熊町のKさん宅の草刈を行って来ました。また、30、31日には福島原発事故被災者支援活動として大熊町帰還区域、帰還困難区域での放射線モニタリングを行いました。

「かわうち葡萄園」整備／草刈作業

8月26日のブドウ畑作業は、石拾いから始まり、草取り、伸びた枝のてっぺん刈り作業を行いました。川内村の標高700mにある山の南側斜面にブドウ畑をより拡張すべく開墾地が広がっています。そこで、樹を植えるまえにまず



は阿武隈山系の花崗岩・石の除去作業から行いました。3名の隊員が横並びになって小さな石から抱える程の石まで拾い集めます。その後、碁盤の目よろしく今度は同じ場所を縦にまた並んで繰り返して石拾い、これを1日半。

山を切り拓いたらそこで樹を植える、なんて単純に考えていたのが大間違い。とにかく雨が降ると花崗岩・石が出てくる場所で、ひたすら石拾い。それから整地してブドウの植樹。石拾いをしてから次に草取り作業を行った。

これは既に植えてあるブドウ樹の根元周りの草を手作業で取るもの。刈払機で通路は草刈作業が出来るものの高速回転刃で樹を傷めてはならないので樹の周り30cmほどを手作業で取る次第。当然ながら地を這う作業で腰にくる！これを半日行ってから、いよいよ伸びた枝のてっ

ぺん刈り作業。今度は両手を挙げて背の高さに横渡しに張られたワイヤーよりも20cmほどのところで枝を切る作業。

地を這っていた我々はそ



こから天を仰ぐ形で半日したら首が痛いこと！仮設住宅だった建物を旧学校跡に移設、そこを宿泊所としてお借りした。洗濯機 冷蔵庫、電子レンジもあり快適！ブドウ畑はまるで別荘地のような景色に囲まれた山あいであり最高ですが、作業そのものは大変な人海戦です。ワインを飲む時に甘いだの渋いだの酸味がキツイだの、そんな文句は言えません！作業をされてワインを送り出す方々に本当に感謝！ブドウ畑作業に続いて富岡町と大熊町でそれぞれのお宅(何れも帰還困難区域)の庭の草刈を実施。やはり春にはそれほどでもなかった草が夏を過ぎると一気に2mほどになっており、エンジン付刈払機でバリバリ刈り取りました。草刈作業中にイノシシ捕獲檻及びアライグマ捕獲檻の餌の補給に軽トラックに乗った職員が来宅。何とその軽トラックの荷台には別のお宅で捕獲されたイノシシが！

山田 次郎(行動隊員)

大熊町帰還区域、帰還困難区域での放射線モニタリング

(1) モニタリング実施の背景:

福島原発事故により被災し各地に避難中の被災者、被災地域自治体に対する復興支援活動は、様々な形で取り組むものとして原発行動隊の業務実施計画の一項目として掲げられている。

今般、帰還困難地域に住宅を有していた被災者2家族の方からの要請(地域の放射線の現状把握)に応え、すでに飯舘村に復興支援活動の中心を置き活動する「ふくしま再生の会」殿と協働し、同会が高エネルギー研究所より貸与されたモニタリングシステム/モニタリングカーを活用する機会を得たことから、大熊町でのモニタリングを実施する運びとなった。

(2) モニタリングの概要

①実施日:8月30日、8月31日



②参加者

- ・避難中の被災者3名(帰還困難区域在住していた方々)
- ・ふくしま再生の会会員2名(実施日毎各1名参加)
- ・行動隊員2名(渡辺(仙台在住)、麻生)

③実施方法

- ・被災者との協議で定めた走行経路に基づき被災者の自家用車の先導でモニタリングカーによる自動測定を行う。

④実施結果

- ・測定した地区:大川原地区、熊地区、大野駅周辺地区ほか
- ・測定のために走行した時間:総計6時間
- ・測定ポイント数:2200ポイント(1日目1400、2日目800)
- ・測定値の分布(作業レポートとしての分析速報で、今回だけでの測定データの意味はありません)

1日目:平均 $0.6\mu\text{Sv/h}$ 、最大値 $2.5\mu\text{Sv/h}$ (対象地域に常磐高速道路西側の相対的に低線量の区域が多い)

2日目:平均 $2.3\mu\text{Sv/h}$ 、最大値 $8.7\mu\text{Sv/h}$ (対象地域に常磐高速道路東側の相対的に西側地域より線量が高い区域が多い)

(3)考察:今回のモニタリングの主たる目的は、被災者3家族の皆さんの住宅周辺区域の放射線量分布を概略把握すること、モニタリング実施により福島復興支援活動を実践すること、ふくしま再生の会のモニタリングシステム運用の実際を経験すること、ふくしま再生の会殿との協働活動を試みることであったが、いずれも所期の目的を達することができた。

(4)謝辞

今回のモニタリングは「ふくしま再生の会」殿の協力なしには実現不可能であり、福島復興支援活動としての成果も望めなかったところであり、「ふくしま再生の会」殿から参加されモニタリングカーを長時間運転いただいた会員2名の方に深く御礼申し上げます。

また、帰還困難区域でのモニタリングを実現するために引率、先導いただいた3名の被災者の方々には、先導車の運転、案内ばかりでなく、宿泊先の無料提供、二日目の昼食のご提供など親身のご協力を賜りあらためて感謝、御礼申し上げます。

麻生 良二(事務局ボランティア)

第 85 回院内集会 「ウォッチャーからみたこの1年のフクイチ」

日 時 9月 26 日 (木) 午前 11 時から午後 1 時まで

会 場 参議院議員会館 102 会議室(一階)

講 師 中島賢一郎(公益社団法人 福島原発行動隊理事)

東北ブロック会議

上記の作業に参加した麻生良二、山田次郎、渡辺正彦(行動隊員)、杉山隆保(行動隊員)に安藤博、井出寿一(行動隊員)、北村俊郎(賛助会員)が加わって9月1日の午前10時から正午まで「東北ブロック会議」を開きました。討論・決定された主なことは以下の4点です。

- 一、「汚染水問題」については「当面、福島県沖海域への海洋投棄」に反対する。その実現をめざして国に「請願書」を提出する。
- 一、現在の行動隊の活動目的が「隊員」に分かりづらいし、支援対象である被災者や自治体、企業・団体にも理解されていない。現在の活動目的を分かり易くする必要がある。
- 一、12月に「東京電力福島第一原子力発電所」見学を実施する。
- 一、「福島集会」を開催する

北九州で被災避難者にお会いして

川辺希和子

北九州市の川辺希和子さんから、放射性廃棄物処理問題に関わるマスコミのあり方などに触れてご寄稿いただきました。わたくし安藤が事務局長を務める淡路町事務所の“先輩”【非暴力平和隊/日本】のメンバーです。行動隊が団体会費の値上げをした際、多くのメンバーが行動隊を離れて行かれるなかで、「これからも前向きに活動されることを感じて」この値上げを受け入れたことを記しておられます。(安藤 博)

2011年3月11日の東日本大震災と福島原発事故の時、末娘が茨城県つくば市に住んでいました。ライフラインが止まった中での数日間を友人と助け合って過ごした後、やっと交通機関が動いて北九州市(福岡県)まで帰ってきました。私は、被曝が心配なので大学を休学あるいはやめることを勧めましたが、娘は考えた後、やっぱり辞められないと涙をこぼしました。ぎりぎりまで北九州に引き止め、その後大学に戻ってゆきました。大学生活では、被曝を

心配するような友人同士の会話は、ほとんどなかったようです。たったこれだけの体験だと思われるかもしれませんが、3.11はとても他人ごとではなく、当時はとても悲しく暗い気持ちで過ごしていました。

また、原発事故から北九州近辺に避難してこられた方たちとお会いしました。どんなに辛い思いをしながら、家族や友人と別れ、決断して慣れ親しんだ場所から避難してこられたのか、お話を聴く機会がなかったら、なかなかわか

らなかったと思います。子どもにこれ以上被曝させたくないという思いで、夫婦の考えの違いから離婚までし、断腸の思いでやっと避難してこられた方もおられました。その北九州に被災地の瓦礫がやってくるというので、放射能を帯びた瓦礫受け入れ焼却をしないしてほしいということを市に訴える運動が始まりました。避難者だけでなく、瓦礫広域焼却に疑問を持つ市民も一緒になっての動きでした。しかし、ニュースで流れるものは、瓦礫受け入れは被災地の痛み分けでそのくらい我慢するべき、受け入れ反対というのは我儘だ・・・というようなものばかりでした。避難者の方たちは、自分たちの安全安心のためだけに訴えているのではないのに、肝心の弁護士や市民のスピーチは放映しないで反対運動の一部を切り取った映像が流され、反対運動が過激な集団というような誤解を招くような内容でした。一部を切り取られた報道は、自分がこの目で見た実際のものとは大きな違いがあることに驚きました。瓦礫広域焼却処分の疑問については、私が知る限りにおいて報道されませんでした。避難者の方たちの言葉をお借りしますが、「被災地支援」の言葉のもとで「意識の違いによる分断」が進められ、すべきこと、できることもしないまま時間が過ぎ、被災者の方々の苦しみ悲しみは癒されず、疲労で倒れてしまわないかと心配になるほどの日々でした。報道、特に

テレビ報道の質の低下と偏りを、この頃から今日まで強く感じています。

福島原発行動隊の事を知ったのは、多分、安藤博さんを通してだったと思います。「福島第一原発事故の収束作業に当たって、若者に被曝させないためにシニアが現場作業を肩代りする」という呼びかけに、こういう方たちがおられるのだと心動かされ、賛助会員になりました。私の日常は、介護ヘルパーをしながら母の世話のために広島に通い、他にもかかわっていることがいくつかあるという状態なので、実のところ通信もざっくりとしか読むことができていません。福島原発行動隊の当初の目的が実現しない様子なので、他に支援するところが多いこともあって、もう退会しようかと思った時期がありましたが、丁度そのタイミングで事務局の方(?)から会費の値上げのお願いの電話がありました。これからも前向きに活動される事を感じて今まで続いています。生の声を聞くというのは、大きいですね。今回原稿の依頼があったので通信を少し丁寧に読み返し、改めて内容の濃いことを知りました。当初の目的を目指しつつ、現在は院内集会や講演会、福島復興支援のために直接の支援など、地道な活動をしっかりとっておられることがわかりました。今後は、新鮮なうちに通信をしっかりと読みたいと思います。

連絡会議にご参加ください

事務連絡やプロジェクト事業の進捗確認などのため、毎週1回、金曜日の午前10時30分から一時間余、東京・神田淡路町の事務所で会議を行っています。福島原発行動隊メンバーなら、どなたでもご参加できます。多くの方々のご参加をお待ちしています。

最近、事務局に来られない方を考慮して「ZOOM」というアプリケーションを活用しての参加もできるようになっています。

【9、10月予定】

●院内集会：9月26日(木曜) 11-13時

●連絡会議：9月20日(金曜)、27日(金曜)

10月4日(金曜)、11日(金曜)、18日(金曜)、

25日(金曜)



SVCF 事務所案内図